

道徳だより

どう
Do 徳 ?
どう 説く ?
どう
道 talk



令和 8 年 7 月
京都市立道徳教育研究会
広報 部
(第 2 号)

「自己の生き方について考えを深める」とは ～授業の方向性を整えるために～

特別の教科道徳の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことです。5月22日の「道徳教育研究会スキルアップデイ」の研修では、目標の中の「自己の生き方について考えを深める」ことに焦点を当て、総合教育センター指導室 指導主事 保本貴之先生の講話から授業づくりの方向性について考えました。

道徳性ってなんでしょう？

学校の廊下にごみが落ちていたら「拾う」先生方が多いのではないのでしょうか。では、学校の外ならどうでしょうか。「きれいな方がいい」「1つ拾えば1つきれいになる」「誰のごみかわからない」など、私たちは様々な価値をもとに考え、判断し行動しています。さらに、

- 拾いたい
- 何か他にできることはないかな
- よりよい行動をしたい

という思いにつながっていく姿こそ、道徳性の表れではないのでしょうか。

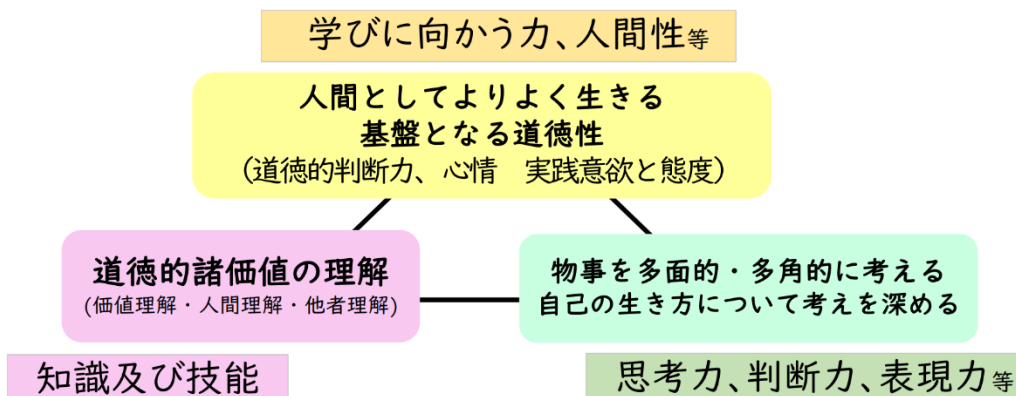
人は、誰もが「こんなふうに生きたい」「こんな自分でありたい」という願いをもっています。特別の教科道徳科は、子どもたちが多様な考えや価値観と出会いながら、自分自身の生き方を見つめ、よりよく生きること（ウェルビーイング）につなげていく教科であると思います。



総合教育センター 指導室
指導主事 保本 貴之先生

道徳科で育てる3つの力

【育成を目指す資質・能力の三つの柱】



考えが広がり、深まるとき

道徳の学びは、「出会い」から始まります。

人との出会い、場所との出会い、考え方との出会いがあるとき、私たちは一度立ち止まり、「自分はどうか考えるだろう」「これからどうありたいだろう」と考えます。その積み重ねが、今の自分の生き方につながっています。

道徳の授業でも、まず教材との出会いがあり、そのテーマについて自分の考えをもちます。そして、友達の考えを聞いたり比べたりすることで、多様な価値観に出会います。すると「なるほど」「たしかに」「でも…」といった心のつぶやき生まれ、そこから納得や新たな気付きへとつながっていきます。

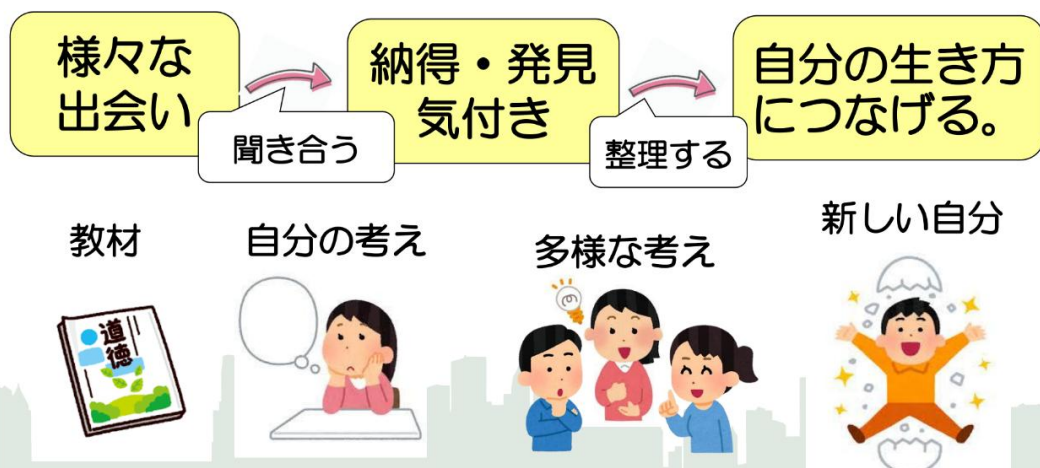
さらに、自分の考えを見つめ直し、整理していくことで、新しい自分の考えに出会い、それがこれからの生き方へとつながっていきます。このように、考えが広がり、深まっていく中で、自分のなりたい姿や進みたい方向が見えてくるのが、「自己の生き方を深める」ということです。

だからこそ、授業の中でのさまざまな「出会い」を大切にしていきたいと考えています。



道徳教育研究会 研究部長
桃山南小学校 安藤 友里

自己の生き方を深めるとは？



安藤研究部長のお話を伺い、子どもたちと教材を「どこでどのように出会わせることができるのか」と思いを広げながら、皆さんとともにお話を聞かせていただきました。先生方一人一人が「自己の生き方を深める」授業を意識することができれば、京都市の道徳教育はさらに素敵なものになっていくのではないかと感じています。

今回のご講義から、私自身も「自己の生き方を深める」とは何かを改めて考える機会となりました。子どもたちが多様な考えに出会い、自分の考えを見つめ直しながら気付きや納得を重ねていくことが、自分らしいよりよい生き方へとつながっていくのだと感じています。

そこで最後に、ご講義の中で保本先生から示された問いをお伝えします。

「自己の生き方について考えを深める」の「深める」とは、『どのような姿』を指すのでしょうか。子どもたちのどのような姿が「深まっている」といえるのでしょうか。

ぜひ、日々の実践と重ねながら目の前の子どもの姿を考えてみていただければと思います。

次回案内 7月31日に授業実践力向上講座が開催されます。ぜひご参加ください。

【文責 清水 康代（朱雀第一小学校）】